

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531069

研究課題名(和文)教育達成の階層化における「拡大家族効果」の検討

研究課題名(英文)The Effects of Extended Family on Class Differences of Educational Attainment

研究代表者

荒牧 草平(Aramaki, Sohei)

九州大学・人間・環境学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：90321562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：教育達成に対する拡大家族(祖父母やオジオバ)の影響について、全国規模の社会調査データを用いて分析を行った。その結果、性別や年代にかかわらず、親の影響をコントロールしても、拡大家族の直接効果が観察された。これらの効果が、日本の伝統的な家族制度を背景とした、拡大家族成員から子どもへの直接的な影響(経済資本や文化資本の伝達)をとらえているという理解は分析結果とは整合しなかった。むしろ、彼らが親の準拠集団となり、子どもに対する親の教育期待形成に影響することを表していると解釈するのが妥当だと考えられた。

研究成果の概要(英文)：Using the nationally representative surveys, I examined the relation between the educational attainment of the respondents' children and the educational certificates of extended family members as grand parents and uncles and aunts, net of respondent's educational certificate and other important variables as sex and cohort of the children. The results of the various analyses show the direct effects of the certificates of extended family members on educational attainment of the children. It is not supported by the data that these effects indicate the direct transmission, which traditional family institution promotes, of economic and/or cultural capitals of extended family members to the children. More appropriate interpretation is that their certificates work as the reference for the respondents in forming their educational expectation to their own children.

研究分野：教育社会学

キーワード：家族社会学 出身階層 家族制度

1. 研究開始当初の背景

教育達成に対する家族の影響には、これまでも多くの関心が寄せられ、膨大な研究が積み重ねられてきた。しかしながら、分析方法が絶えず工夫され、説明の試みも様々な展開されてきた一方で、検討対象は、多くの場合、親の職業や学歴、暮らし向きなどの「家族背景 (family background)」の影響に限られ、「家族構造 (family structure)」の側面を取り上げる場合にも、キョウダイ数や出生順位など、核家族内の構造を考慮するに留まってきた。例外として、祖父母 (3 世代) 効果に着目した先行研究も存在しないわけではないが、日本の片岡 (1990)、アメリカの Warren and Hauser (1997)、フィンランドの Erola and Moisio (2007) など数例に限られており、諸外国を含めても十分な関心が向けられてこなかったと言える。

しかしながら、近年では、多世代にわたる家族の影響を考慮すべきという Mare (2011) の指摘にも触発されて、広い範囲から階層や家族の影響を考慮する流れが生まれつつある。実際、日本の全国家族調査 (NFRJ) データを用いた最近の研究 (荒牧 2011) でも、子どもの教育達成に対して、祖父母やオジオバなど拡大家族の学歴が独自の効果を持つことが認められている。こうした実証的知見は、「核家族」に閉じられてきた従来の研究に対して、「理論的焦点の転換」(Merton 1949) をもたらす可能性がある。

2. 研究の目的

本研究では、教育達成に対する拡大家族の効果に関して、全国規模の調査データを用いて詳細な分析を行うとともに、そうした「拡大家族効果」の意味を理論的に考察することを通じて、教育達成の階層化メカニズムを従来よりも広い視野からとらえることを目的とする。

また、従来の教育達成や地位達成研究の枠組にとどまらず、家族制度や社会関係資本などの研究成果と接合して説明を試みるとともに、それらの研究成果をふまえて、階層効果に関する研究の見直しにつながるような枠組の提示を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、以下に設定した 3 つの課題に沿って研究を進める。

(1) 「拡大家族効果」の実証的把握

上述の荒牧 (2011) では、ごく初歩的な集計結果が示されるにとどまっており、多変量解析もなされておらず、子どもの性別や出生コーホートによる相違といった基本的な分析も不十分であり、拡大家族との関係性や家族構造の影響も検討されていない。したがって、全国家族調査 (NFRJ) を中心とした全国規模の社会調査データを用いて、これらの点に関する計量分析を進め、教育達成に対す

る「拡大家族効果」について実証的な把握を進めることが第 1 の課題となる。

(2) 階層化理論による説明

第 1 の課題で得られた実証的な知見を、教育達成の階層化メカニズムという観点から整理し、理論的な説明を試みる。そうした理論化の試み自体は既に数多くなされており、それらの観点は、親の資源・資本による間接効果と直接効果、および社会的地位自体の効果に整理できるが、いずれの場合も理論的な射程は核家族の範囲内にとどまってきた。したがって、拡大家族の持つ資源・資本や社会的地位についても、これらの理論的説明が妥当するかどうかを見極めることが求められる。これを進めるため、具体的には、Boudon の IEO モデル、Bourdieu の文化資本論、Breen and Goldthorpe (1997) の相対的リスク回避仮説等について、より一層、理解を深めながら検討を進めることが課題となる。

(3) 家族制度論や社会関係資本論との接合

上記のような従来の説明にとどまらず、「拡大家族効果」をより効果的に説明できる可能性をもった理論・概念、具体的には、直系家族制などの家族制度、親族によるネットワークといった家族社会学的な観点、社会関係資本などに関する研究成果を参照して、新しい角度から説明を試みる。また、それをふまえて階層研究全般の見直しにつながるような新しい研究枠組を提示する。

4. 研究成果

(1) 「拡大家族効果」の実証的把握

全国家族調査 (NFRJ) のデータを用いて分析を進め、孫の教育達成に対する祖父母学歴の効果に関する研究【荒牧 2012 (後述の研究成果を指す。以下同様)】、教育達成に対する祖父母とオジオバの効果および家族制度との関連に関する研究【荒牧 2013】、前記 2 論文に関連した分析の概要に関する国際学会での報告【Aramaki 2012】、国際学会での報告のベースとなった研究に関する論文の執筆【Aramaki 2013】を行った。これらの研究において、拡大家族効果について、いくつかの測定方法や分析手法を試みたが、分析対象の性別や年代 (出生コーホート) にかかわらず、親の影響をコントロールしても、祖父母やオジオバの直接効果が観察されることが示された。

なお、の国際学会における口頭発表に関して、教育達成に対するオジオバの効果については国際的にも研究例がほとんどないこと、祖父母の効果についても日本の研究事例が国際的にほとんど知られていないこともあり、予想以上の反響が得られ、日本に帰国後も海外の数名の研究者と研究交流を行うことが可能となった。

(2) 従来の階層化理論による説明

日本の教育選抜システムや階層概念に関する理論的整理【荒牧 2014】、教育を通じた階層化に関する主要な理論である Bourdieu の文化資本論に関するレビュー、以前に行った Breen and Goldthorpe (1997) に関するレビューなどの成果をふまえ、(1)で得た実証的知見の説明を試みた。その結果、いずれかの理論によって明確に理解できるとは言えず、家族制度や社会関係資本・社会的ネットワークなどの観点を考慮する必要のあることが示唆された。

(3) 家族制度論や社会関係資本論との接合

家族制度を背景とした多世代間での影響を検討するため、特に祖父母効果に着目して、NFRJ データの再分析を行った【荒牧・平沢 201X】。その結果、祖父母効果を家族制度や多世代間での資源の継承・伝達という観点から理解することは難しいこと、むしろ拡大家族の存在が親の準拠集団として子どもに対する親の教育期待形成に関与することで、影響している可能性のあることが示された。これは社会関係資本や社会的ネットワークの観点から解釈を進めることの有効性を示唆していると考えられた。

そこで、これらに関する文献を読み進めるとともに、新たに「教育と仕事に関する全国調査 (ESSM)」のデータを用いて、改めて拡大家族効果に関する分析を行った。その結果、異なるデータにおいても、同様の効果が認められることを確認した。また、特にオジオバ効果に着目して、より踏み込んだ分析を行い、上記の理解の妥当性を検討した【荒牧 2015】。

以上の成果をその一部として組み込み、博士論文(「教育達成過程における階層差の生成：親の教育的地位志向による進路選択の直接的な制約」大阪大学人間科学研究科)を完成させた。

ここでの重要な知見は、子どもの教育達成に対する拡大家族の直接効果は、日本の伝統的な家族制度を背景とした直接的な影響(経済資本の伝達や文化資本による社会化)というよりも、彼らの存在が親の準拠集団として、子どもに対する親の教育期待形成に関与していると理解できることが示された点である。また、この結果は、拡大家族に限らず、親の社会的ネットワークの影響について、さらに研究を進めるのが有効であること、および、そうした観点から出身階層の影響について再考する必要のあることを示していると考えられる。そのため、2015 年度からの新しい研究課題「家族制度と社会関係の観点からみた階層効果の再検討」(研究課題番号 15K04367)においては、これらの観点から研究を進めていく。

< 引用文献 >

荒牧草平, 2011, 「学歴の家族・親族間相関に関する基礎的研究: 祖父母・オジオバ学歴の効果とその変動」稲葉昭英・保田

時男(編)『第 3 回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第 2 次報告書 第 4 巻: 階層・ネットワーク』日本家族社会学会全国家族調査委員会: 45-60.

Breen, Richard and John H. Goldthorpe, 1997, "Explaining Educational Differentials: Towards a Formal Rational Action Theory," *Rationality and Society*, 9(3): 275-305.

Erola, Jani and Pasi Moisio, 2007, "Social Mobility over Three Generations in Finland, 1950-2000," *European Sociological Review*, 23(2): 169-183.

片岡栄美, 1990, 「三世代間学歴移動の構造と変容」菊池城司編『現代日本の階層構造 教育と社会移動』東京大学出版会, 57-83.

Merton, Robert K., 1949, *Social Theory and Social Structure: Toward the Codification of Theory and Research*, New York: The Free Press. (= 1961, 森東吾・森好夫・金沢実・中島竜太郎訳『社会学理論と社会構造』みすず書房).

Warren, John R. and Robert M. Hauser, 1997, "Social Stratification across Three Generations: New Evidence from the Wisconsin Longitudinal Study," *American Sociological Review*, 62(4): 561-572.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

荒牧草平, 2015, 「子どもの教育達成に対するオジオバ学歴の影響：親の高学歴志向を形成する背景としての機能」『全国無作為抽出調査による「教育体験と社会階層の関連性」に関する実証的研究』平成 23~26 年度科学研究費補助金基盤研究 (A) 研究成果報告書(課題番号 23243083): 40-54. 査読なし

荒牧草平, 2014, 「日本の選抜システムの特徴と出身階層概念の整理」『九州大学教育社会学研究集録』15: 1-14. 査読なし

荒牧草平, 2013, 「教育達成に対する「家族」効果の再検討：祖父母・オジオバと家族制度に着目して」『季刊 家計経済研究』97: 33-41. 査読なし

荒牧草平, 2012, 「孫の教育達成に対する祖父母学歴の効果：父方母方の別と孫の性別・出生順位に着目して」『家族社会学研究』24(1): 84-94. 査読あり

[学会発表](計 1 件)

Aramaki, Sohei, 2012, "Extended Family Members' Effects on Educational Attainment in Japan: Focusing on the effects of grandparents, uncles, and aunts and their diversity," *PSID Conference: Inequality across Multiple Generations*, University of Michigan, Survey Research Center, Sept. 13-14.

〔図書〕(計 2 件)

荒牧草平・平沢和司, 201X, 「教育達成に対する家族構造の効果：キョウダイ間の配分と祖父母からの継承に着目して」稲葉昭英・田淵六郎・田中重人・保田時男編『日本の家族 1999-2009: 全国家族調査による計量社会学』(発行予定)。

Aramaki, Sohei, 2013, "Effects of Extended Family Members on Children's Educational Attainment: A focus on the diverse effects of grandparents, uncles, and aunts," Shigeto Tanaka ed., *Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families: Tradition and Modernity in the 21st Century*, Tohoku University Press: 299-319.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒牧 草平 (ARAMAKI, Sohei)
九州大学・大学院人間環境学研究院・准教授
研究者番号：9 0 3 2 1 5 6 2